



風と太陽を五感で感じる栖

かぜ たいよう ごかん すみか

建築面積 100.40㎡
延床面積 143.25㎡
木材使用量 21.46㎡
埼玉県産木材使用量 19.28㎡
工事平米単価 20万円/㎡



正直につくる木の家。
陽の栖
ひなすま



陽の栖 HP



陽の栖 instagram

「地元の材を使った夏涼しく、冬暖かい家にしたい」
所要室数と大きさ以外の施主の唯一の要望でした。
そこで私たちは地元の木を使いつつ、壁は調湿性能で木材と相性の良い「珪藻土」。断熱材にも調湿性能と断熱性能に優れた「羊毛」を使用し、自然素材を使用した住宅にしています。
そして埼玉県県の北に位置する私たちの地域では、夏は気温40℃近くなることで全国でも1位2位を争います。
そのため夏季は日射を室内に入れないよう軒の出を計算し、室内はなるべく開放的にできる引き戸を全ての部屋に取り入れました。これにより卓越風向からの風が室内を通り抜け涼感を得ることができます。
冬は群馬県から吹く赤城風と夜間の放射冷却により朝方の気温は-5℃まで落ちます。しかし、この状況の中でも『年間を通しての降雨量の少なさから得られる日射量』が魅力的な地域でもあります。ダイレクトゲインを最大限利用できる空気集熱式床暖房のOMソーラーを採用することで、1Fの床からやんわり暖かくなり大きな吹き抜け空間を作ることができ、家中どこにいても寒くない建物を造りました。



戸袋にも木を使う外観



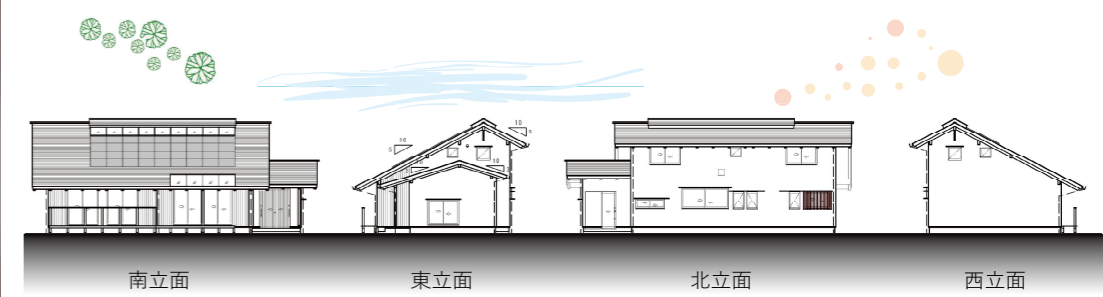
お客様をおもてなしできる通り土間玄関



使いやすさを考えて、設計・職人と造る対面キッチン



昔の建物の思い出をこれからもつなく建具



南立面

東立面

北立面

西立面

職人の技を感じる



建物の骨組みが決まる上棟は、自社の仕事のみを行う大工が組み上げていきます。

思い出と歴史を感じる

今回築70年になる建物の建替えのため、当時使用された県産材で樺の柱・梁をキッチンカウンターや、机に加工し再利用している。今までの建物での思い出を新しい形で受け継げるよう工夫したことに加え、処分時や新たに発生するCO2の削減を含め環境負荷も低減しています。



製材前の古材

加工した古材



カウンターとしてアクセントに



2Fのお部屋には、壁にも杉板を使用。木の香りと落ち着きのある空間にしました。

建物の奥でも明るい居室



平屋にも見えるシンプルな外観